

# 2022ボッチャ交流大会 競技規則

## 1. 競技規則

本大会は「日本ボッチャ協会競技規則2021-2024 V.1」並びに本大会申し合わせ事項に基づいて行う。

## 2. 参加資格

出場選手は、次のいずれかの条件を満たす者とする。

- (1) 身体障がい者は、身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条の規定により、身体障害者手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障がいのある者。
- (2) 知的障がい者は、厚生事務次官通知（昭和48年9月27日厚生省発児第156条）による療育手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障がいのある者。
- (3) 精神障がい者は、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条により、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障がいのある者。

## 3. 参加区分

下記の2部門のいずれかを選択する（なお、障がい種別・男女・年齢では区別しない）

- (1) 立位の部（立った姿勢で競技を行う）
- (2) 座位の部（車いす等の座った姿勢で競技を行い、ランプの使用を認める）  
※「立位」「座位」は競技時の状態を指し、平時の状態は問わない。

## 4. 服装

運動に適した服装とする。

## 5. 招集・入退場

- (1) 招集は競技場内で行い、競技進行により放送で招集するので競技役員の指示に従う。
- (2) 招集完了時間は、試合開始の10分前とする。
- (3) 競技場への入退場は、競技役員の誘導により行う。

## 6. 練習

受け付けを済ませた後、開会式の合図があるまではウォームアップコート内での練習を許可する。コートは当日指示する。

## 7. 競技方法

- (1) チーム編成 1チームの編成は、プレーヤー1名以上3名以内とする。
- (2) コート  
1 2.5m×6mのコートで行う。  
選手は2.5m×3mスローイングボックス内でプレーする。
- (3) 用具
  - ① ボールは皮革製で周長直径270±8mm、重さは275±12gとし、主催者側で用意する。
  - ② ジャックボール1球と赤・青のカラーボールそれぞれ6球の13球使用する。
  - ③ ランプは主催者側で用意したものを使用するか、選手個人のものを使用してもよい。ただし、ランプのサイズは支柱を含め最大にした状態で2.5m×1mに収まる範囲の大きさでなければならない。また、ボールを射出するような装置や照準器を取り付けてはならない。

#### (4) 競技の流れ

- ① 赤・青チームをじゃんけんかコイントスなどで決める。
- ② チームごとに赤または青のスローイングボックスに入って投球する。自チームのスローイングボックス内であればどこから投げてよいが、投球時に体やランプがスローイングラインを踏んではならない。
- ③ 先攻（赤チーム）の1番目の人がジャックボールを投げ、次に赤ボールをジャックボールに近づけるように1球投げる。
- ④ 後攻（青チーム）の1番目の人がジャックボールに近づけるように1球投げる。
- ⑤ ④以降、ジャックボールに遠いチームが審判の指示板に従って順番に投球する。  
※自チームの指示板が出ている時は、チーム内でどこに投げるか相談するなどコミュニケーションを取ったり、審判の許可を得てコート内を見に行ってもかまわない。
- ⑥ ジャックボールから遠いチームの手持ちボールがなくなったら、ジャックボールに近いチームの手持ちボールがなくなるまで投げる。
- ⑦ 投球したボールが外に出た場合は、アウトボール（エンドが終了するまでコートの外に置く）となる。
- ⑧ ジャックボールが当てられて外に出た場合はクロスに戻される。
- ⑨ 赤・青両チームのすべての手持ちボールを投球し終わったら得点を数え、1エンドが終了となる。
- ⑩ 1エンドの得点の付け方
  - a. ジャックボールの一番近くにボールがあるチームが勝ちとなる。
  - b. ジャックボールの一番近くにある、負けたチームのボールまでの距離を半径として円を描く。その中に勝ったチームのボールが何個入っているかを数えて、その数を得点とする。
  - c. 赤・青共に同じ距離にあればそのボールの数を両チームの得点とする。
- ⑪ 2エンド目以降は、エンドごとに先攻・後攻を入れ替えて競技を行う。
- ⑫ 試合は4エンド行い、その合計得点により勝敗を決定する。得点合計が同点の場合は再度先行後攻を決め、ジャックボールをクロスに置いて両チームが1球を投げジャックボールにより近いチームを勝ちとする。（タイブレーク）
- ⑬ 1試合につき、第2エンドの時点で試合時間が30分を超える場合は第3～4エンドを行わず、第2エンド終了時の得点によって勝敗を決定する。
- ⑭ 「立位の部」「座位の部」ごとにトーナメント（勝ち抜き戦）を行う。ただし、参加選手数等によってはリーグ戦への移行や試合エンド数の調整を行う。

## 8. その他

### (1) 競技補助者について

必要に応じて選手1名につき競技補助者を1名置くことができる。ただし、競技補助者は原則として競技中は選手の指示によって動き、ランプの移動や調整に際してコート内を見てはならない。

### 《コート図示》

